

福岡幼稚園だより

鐵をも鎔かすてふ炎熱の暑さも早や忘れられ秋の朝の涼さに勇みに勇みて氣勢よく登園する幼児の其天真の笑顔を見せられては世の何物をも之れに勝るものはあるまいと思ふ程快感を覺ゆるのは保育者一同御同感である事と存じます。

此好季節に當つて當市博多には九月三日突發的三十名の(一日中)虎疫患者が發生しました、漸次延蔓しまして遂に一周を出でぬ間に虎疫流行地と指定される迄になりました。各小學校は十日間各幼稚園は二週間を閉鎖したので有ます。暑中休暇中四十餘日幼児に接せず淋しく暮した私等保育者は楽しく期待して居た幼児の笑顔も又暫らく見られなくなつたので有ります。

是より先き本年三月十九日はかしこくも

國母陛下當地へ御行啓遊ばし給ひたれば我福岡幼稚園は之れを紀念すべく園舎の増築を起工いたしました。此程稍々外形の面目を改めたのです。けれども

私立福岡幼稚園長 荻野ヒサ子

未だ幼児の要求を満すべき設備は整え得ないので居ます。否園主が私財を喜捨して僅に二十坪の一室を新築し加へたのですから設備費が無くなつたので有ます。之れを知つた桃太郎會諸君は七月十九日以來同志を語らい園の事業を援助すべく各自の勞力を提供せん事を相誓はれたので有ります。八月十九日に確實に決定しましたと私に報告を得ましたのは九月九日を期して

大音樂會を開催し入場會員の會費收入の純餘金全部を母園に寄贈して設備の完成を計らんと云ふに在るのです。

桃太郎會は苦心奮闘各方面の交渉を休暇中に終へねばならぬのですから夜を日に續いても猶足りないもので有りました。殊に今年の暑は九十七度を昇つたのです、而し此炎熱の暑に身を焦して東奔西走努力された。

其結果。主催桃太郎會。後援者九大フキルハルモ

ニ―會演奏者聲樂萩野綾子。ピアノ岩岡道子。ヴァイオリン榊博士(保三郎氏)伴奏者は中野喜代子と云ふ各先生に決まりました非常な前況で主なる演奏者は二人共福岡高女の出身で有りますから母校の同窓生は殆んど後援者として援助されたのです晝夜二回の第一は女學校團體で二回は演奏者の母校同窓生と一般の聴衆と云ふ約束でしたしかし第三回の要求をされたのです全く申込學生を全部收容し得ない有様でした。第三回會場も準備する事に協議の最中

突貫的虎軍の襲來を受けましたのは誠に残念でありましたが致し方も御座いませんでした、開會當日患者は市内百六名を累計したのです。而も會場は虎疫患者に包圍されて居るのです。茲に桃太郎會は憂愁のまゆを集め三難問題を協定すべく園舎に集まりました。一、公德上中止すべきか。二、延期すべきか。三、事情餘儀なく舉行すべきか、と云ふので有ります。一つ困つた事には桃太郎會員は各階級の青年ではありますけれども過半は學生です、演奏者も教職の人であります。九月九日と云ふは切詰めた日子ですから延期は全然不可能であると云ふので餘儀なく舉行する事になりました。處が、又一打撃を受けました

のは九月七日の午前に各女學校は學生の外出禁止を勵行する事となつたのです。茲に第一回會場は全然空場を豫期せねばならなくなつたのです即ち一千八百五十枚猶不足と云ふ學生券は紙屑となりました。而し桃太郎君は窮策をめぐらして隨意學生券を出したのですがそれが前一日の八日で有りました。

開會當日は兎に角第一回は二百第二回は一千三百名餘の入場者を得られました先づ盛會裡に終りを告げたのは不幸中の幸と一同悦びました此日は桃太郎會員男女三十五名と後援者二十三名で盡力されたのです皆

梅干を副食とした手辨當で働かれましたのは如何に眞劍の赤誠活動であるかを感じるのので有ります。時節柄とてシヨ―コー水の清め水等各所に配置し衛生上の注意も充分されて居りましたが若い人の一層の心使ひは氣の毒に思はれました。此の

収入總額 一千六百二十四圓八十錢

支拂總額 七百九十三圓〇七錢

純益總額 八百三十一圓七十三錢

九月十三日右の純益金全部を桃太郎會より福岡幼稚園設備費として寄贈されました。當園では

一 ビアノ

二 衛生施設

三 運動設備

四 感化材料繪畫

等に出來得るだけ使用したいと思つて居ます。

終りに桃太郎會を御紹介します。

桃太郎會は私立福岡幼稚園の保育を了へた幼児が成人した青年及婦人の有志の集團で有ります。年長者が本年二十六歳です。

會の芽生へは大正五年三月某日の夜一青年が名乗を立て、私(荻野ヒサ)を來訪されたのです。青年の申されますには同窓の某々君(園の同窓)が先生が大そうお年を寄られて白髪で足下もよろめいて毎々門前に杖を頼りに立つて居らるゝのを見受るから一度訪問したらどうかと話し合つて居ましたけれども四名が同じ時に揃ふのが出來兼ねて居るのに私は遠方へ行く事になりましたから單獨お尋しました……先生はお變りはない様ですね……いやそれは老母とお見違ひでしたらう老母は七年前から中風ですからと大笑ひしました。

次に大正六年八月十日に五高在學の青年が前同名

乗りを立て、來訪されました申されますには本月は孟蘭盆會の月ですが園児の死亡者の法要をしたいと今在福の同窓の年長者連中が申合せて居ますそれから一度舊先生方と一座になつて親しく舊誼を温めたいと話し合つて居るとの事で有りました、でも死亡者は正確に報告を得て居ないのが多く有りますから遺憾ながらあと廻しとして現在福中の有志青年が集る事としました其月の二十四日に會しましたのが十七名の舊の子供と三名の舊保母でした。次に次に毎年集る事にして大正八年八月に集つた人等が、桃太郎會と云ふ名をつけたのであります。まだ會の形式は作つて居ませんが自然的漸進的に確く結ばれつつ幼兒期の温情を離れぬ無邪氣の裡に大人らしい働きが出来る様に進んでまいりましたのは前途祝福すべき事と思ひます。桃太郎會の此度の精神的行動の一を御紹介致します。

前に申ました様に桃太郎會は今回音樂會の純益全部を母園に寄贈されたのですが又それと同時に二十五年間勤続の小使婆さんに二十圓を割ひて功勞彰表老體慰安と云ふ美はしき意味を以て記念品代として贈りました。

桃太郎諸君はまだ若いのですから自分で働いて儲かつた金を使ふ人は此内に澤山は居ないのですから此金の使ひ方には大いに趣味が有つたらう思はれます。此金を自分で自由に使ふ事の出来るのです處が誰が發案か一人の會員が白川婆さん（白川婆さんは白川ため女と云ふ私立福岡幼稚園創立以來の有名な小使さんです）此小使さんは誠忠無二の小使で幼児にも實に偽りのない親切でした今は老體の爲め休養して居ます二十九歳で良夫を亡くし三男二女を養育中二男二女に死別した不幸な老人です子供心にも親切に取扱はれて居たのは感銘して居たらしく思はれます。満場一致誰一人異議者なく慰藉したので有ます。

茶話會の日

時刻に婆さん會場に來ました桃太郎君の一人は直ちに二枚の座ぶとんを重ねて出しました婆さん三拜九拜老人の例として先だつは涙です遠慮勝ちに黙くご一人一人の前に出で、婆さんの耳下に口を寄せ顔と顔を近づけて自己紹介様式に申しました、婆さん私は井上ですあの腕白な井上です私は倉成です私は野村です私は太田です津田です……次から

次に近づいて頭をすり寄すれば婆さんはさらぬだに視力衰へて居るのであるに今日は涙で目が曇つてお顔は一つも見得ません皆さまポッチャマお嬢様大きくおなりなされたよと云ふのが勢一ぱいで手拭で目を蔽いました暫し嬉し涙に黙然と伏せ目になりました……暫時沈黙一同感無量桃太郎諸君も目を蔽ひました。

實に優しい催しで有つた事は偽りのない一場の有様で有ます。

此日私の感想

私は元來子供が好きで性來弱い人の友達となり不遇な人の身方となることを唯一の娛みとして喜ぶのであります。其趣味に捕はれて茲に前後三十二年間身を此幼児保育の事業に捧げました。いつも愉快に働くので有ますそれが今日反響的にかく澤山の身方を得まして報酬的誠意の活動を私に將た私の事業に捧げられて援助されましたのは私としては決して他人とは思へません、多くの子供が大きくなつて膝下に歸り來たかの如くに温かく感ずるのみで有ます。

要するに幼稚園事業は其根柢を誠意ある眞の愛護に待つ事を事實に於てしみじみと感じたので有ま

す。

園の將來 桃太郎君は私に申ます園の將來をお氣遣なさいますな今五年を長命なさい身體を害さぬ様に桃太郎も一度は大人になります大人になつた隣には又は保育事業を徹底的安定せしめん事は今日よりお誓ひ申ますと。此一言には將來の光明を豫期すべく感激いたしました。

今日の保育事業は人に生れた人を人間らしく育てると云ふ大責任ある事業ですから、すでに私等の古びたる意味の保育は一個人の事業としては其資力及學識が支へ得べきでない事は充分自覺して居ます、けれども猶餘命のあらん限りは一の趣味として盡さん事の上については私等如き一定の職業に就かないでもよろしいと云ふ餘暇ある女の仕事として或は是れが好適事業かと思はれます。なせならば趣味として楽しく働いて居るそれが不知不識の間に社會奉仕の一となつて居るのですから最も幸福な仕事と感じます。

右は一の報告に過ぎないのでありますが若し何等かの御參考になりますならば御一讀を願ひます。(記者此の御報告は掲載が遅れました。)

○秋のむ庭

チロ、チロ。チロ、チロ。チロ、チロ。

小さな聲で よい聲で

あちらと こちらと かはりばんこに、

眞晝の庭で 蟲がなく

チラ、チラ。チラ、チラ。チラ、チラ。

眞赤な葉つば、黄色の葉。

紅葉と銀杏と、かはりばんこに

静かな庭に、散つてゐる。

(葛原齒氏作)

葛原齒氏作歌童謡小曲演奏會が去る五日東京高等師範學校講堂で開かれました。此の催しは第二回目でありまして、第一回の時に演奏されなかつたもの、みでしたが、氏の佳作の多いことには敬服にたえません。氏は實に此の方面の最初の開拓者であります。歌は、外山國彦、本居長世、弘田龍太郎、宮城道雄諸氏、いづれも當代、童謡作曲の第一人者の作曲であり、それが、可愛いらしい人々によつて歌はれたのであります。私も招かれて多數の熱心なる小さい聴衆の間に伍するの光榮と幸福を得ました。静かな、子供らしい韻律の琴と尺八にあはせて、三人の少女によつて合唱された、此の小曲「秋のお庭」も今尙ほ耳に残るもの、一つです。(S. K.)